ご挨拶

藤田達生

三重大学歴史研究会は、三重大学が発足した翌年の一九五〇年に結成されて以来、地域社会への学術的貢献を目標としてきた〔註1〕。一九五三年には会誌『ふびと』を創刊し、現在までに五九号を重ね、時々には発掘報告書やそれに関連する文集なども刊行してきている。

さて本年二〇〇八年は、藤堂高虎が伊予から伊勢・伊賀に転封した慶長十三年より数えて四〇〇年目にあたり、津市をはじめとする関係自治体では様々なイベントが計画されている。三重大学教育学部が藤堂藩の藩校有造館をルーツとすることもあって〔註2〕、私たちは分科会「藤堂藩史研究会」を中核に、昨年にはプレイベントとして次に示す諸活動をおこなった。

①月例会の「古文書の会」を通じて、樋田清砂氏所蔵『藤堂御家譜并雑書』の翻刻を完了した。同書は、未翻刻の精度の高い高虎一代記であり、これまで順次『ふびと』五八号（二〇〇六年）・五九号（二〇〇七年）に掲載してきた。

②岡田文化財団に申請した研究「藤堂高虎と藤堂藩に関する研究とその成果の公表」が採択され、次のような市民を対象とした講演会を開催し、いずれも大変好評であった。

第一回　二〇〇七年二月三日（於アスト津、ときめき高虎会と共催、三重大学より助成を受ける）

角　舎利氏（伊賀古文献刊行会）

「藤堂高虎関係史料について」

第二回　二〇〇七年八月十一日（於アスト津、ときめき高虎会と共催、津市・三重大学後援）

福井健二氏（伊賀文化産業協会）

「藤堂高虎と上野城」

第三回　二〇〇七年十一月十七日（於伊賀市お城会館、ときめき高虎会と共催、伊賀市教育委員会後援）

東谷　智氏（甲南大学文学部教員）

「藤堂藩伊賀国の役割と藩政機構―広域行政・軍事力をめぐって―」

③論集『藤堂藩の研究』（論考編・史料編）を刊行するために、七回の研究報告会と古文書合宿（九月二十二・二十三日、於榊原温泉神湯館）を実施した。研究報告は、いずれも最先端の水準を示すものであった。

第一回　五月二十日　太田光俊氏（大阪大学大学院文学研究科学生）

「『高山公実録』の成立について」

第二回　六月三十日　齋藤隼人氏（三重大学大学院教育学研究科学生）

「初期江戸幕府における藤堂高虎」

第三回　七月二十一日　藤谷　彰氏（三重県史編纂室）「村方支配と内検・年貢」

第四回　九月二十九日　菅原洋一氏（三重大学附属図書館研究開発室教員）『津八幡宮祭礼絵巻』に見る近世初期の津城下と町屋」
第五回　十月二十七日　浅野　聡氏（三重大学大学院工学研究科教員）「城下町の歴史的町並みの保全と活用―上野城下町の近代化と将来―」
第六回　十一月二十三日　松島　悠氏（広島大学大学院文学研究科学生）「津城に関する研究」
第七回　十二月二十五日　鈴木えりも氏「高虎発給文書の様式」

④津市の「藤堂高虎公入府四〇〇年記念事業」に「藤堂高虎時代の津城と城下町の復原的研究とその成果の公表」を申請し採択され、他大学院生も巻き込んで研究を進めた。この成果は、二〇〇八年二月二日開催の第三十七回三重大学歴史研究会大会で発表する予定である。

⑤三重大学高等教育創造開発センターの募集した「ＰＢＬ教育支援プログラム」に、二〇〇七年度後期日本史演習Ⅰ「藤堂高虎時代の津城と城下町の復原的研究」が採択され、教員と学生が一体となった授業をおこなった。

このたび刊行する本書は、①④⑤と関係する。収録した絵図は、津市役所の所蔵するもので、『津市史』の編纂過程で旧藤堂藩重臣家が所蔵する「津城下町絵図」を写したものといわれている。トレースと解読は、学生部会（長谷川市太郎・福山美和・江尻明日香・野田あずさ）が、齋藤隼人氏・北川英昭氏・竹田知靖氏の協力を得ておこなった。

『藤堂御家譜并雑書』については、これまで『ふびと』で翻刻してきた原稿に残り分を加え、さらに前欠部分をほぼ同内容の伊賀市立上野図書館所蔵の同書で補った。収録を快く許された樋田清砂氏および伊賀市立上野図書館には、心から感謝申し上げる。また翻刻作業においては、特に太田光俊・久志本英男両氏にお世話になった。

『藤堂御家譜并雑書』の特徴は、一見してわかるように、多数の一次史料の写しが挿入されていることである。そのなかには原史料が伝来しているものもあり、内容的な信頼性を裏づけるものといえよう。

如上のように、私たちは広く助成を受けて高虎と藤堂藩に関する研究を進めており、その成果については、市民に還元することをめざしている。この活動が、いささかなりとも関係自治体の町おこしに寄与できれば幸いである。なお本書の刊行には、「藤堂高虎公入府四〇〇年記念事業」として津市から資金援助を受けている。

〔註1〕三重大学歴史研究会のこれまでの活動記録は、藤田達生編『「教科力」構築のために―三重大学歴史研究会とＰＢＬ教育―』（平成十八年度科学研究費補助金基盤研究（B）（一般）「教員養成型ＰＢＬチュートリアル教育のためのシステムおよび評価法の開発」報告書）を参照されたい。

〔註2〕有造館は、藤堂藩十代藩主藤堂高兌（たかさわ）が文政三年（一八二〇）に設立した藩校である。かつて有造館は、全国的に著名な学者である猪飼敬所や斎藤拙堂などを擁し、学問水準の高い藩校として知られていた。明治維新後、藩校を利用して三重県師範有造学校が開設され、何度かの編成替えを経た後、昭和二十四年に三重大学学芸学部となり、昭和四十一年には教育学部に改組され現在に至っている。有造館が津城内に置かれた関係から（現ＮＴＴ津周辺）、本学も上浜キャンパスに移転するまでは旧城内の丸之内キャンパスにあった。

（ふじた　たつお　三重大学教育学部教員）